



固定資産税についてのお知らせ

固定資産税は、毎年1月1日(賦課期日)に、土地・家屋、償却資産を所有している方が、その固定資産の所在する市町村に納める税金です。
公平・適正な課税のため、次のような場合には申告や届け出をしてください。

◆事業を行っている方は、償却資産の申告を！

会社や個人で工場・商店などを経営している方、駐車場、アパートなどを賃貸経営している方、太陽光発電等の充電をしている方が、その事業のために用いる構築物・機械器具・備品などの有形資産を償却資産といえます。
償却資産の所有者は、資産の多少や異動の有無にかかわらず毎年1月1日現在における資産の状況などについて、申告することが地方税法で定められています。
申告期間 令和4年1月4日

(火)1月31日(月)

受付場所 税務課(本館2階)・支所(川島・山川・美郷)
※申告書が必要な方は、税務課までご連絡ください。

◆次のような場合は届け出などが必要です

●納税義務者がなくなった場合

納税義務者が亡くなったときは、相続人が納税義務を引き継ぐこととなります。法務局(登記所)で相続登記が済んでいない場合は、相続人の代表者を決めていただき、固定資産税を納める方の届け出をお願いします。
なお、届け出がない場合および相続人不明の場合は、調査によって「現に所有する者」を指定することになります。法人が消滅した場合も、同様の手続きとなります。

●土地の利用状況を変更した場合
宅地課税されている土地は、その土地の利用状況によって税額が異なります。店舗や事務所などから住宅に改築した場合や、住宅用地から住宅用地以外に利用状況を変更した場合は「住宅用地異動申告書」を提出してください。

●家屋を取り壊した場合

令和3年中に家屋を取り壊した場合は、「家屋取壊し申告書」を提出してください。



●未登記家屋の所有者が変更となった場合
法務局で登記していない家屋の所有者が変更となった場合は、「納税義務者変更願」を提出してください。この書類には、新旧所有者の印鑑登録証明書を添付し、実印を押印してください。

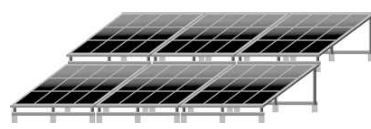
●口座振替を利用されている方へ

登録している口座の名義人が亡くなった場合は、口座閉鎖によって口座振替ができなくなります。金融機関で口座振替変更の手続きをお願いします。
また、共有名義の構成員が亡くなった場合に、登録口座が引き継がない場合がありますので、ご注意ください。

◆償却資産の一例◆

飲食店	厨房施設、カラオケセット、看板など
工場	各種製造設備、受変電設備など
建設業	パワーショベル、ポータブル発電機など
理容業・美容業	理・美容いす、洗面設備、看板など
病院	ベッド、手術台、各種医療装置など
小売店	商品陳列ケース、冷蔵庫、レジなど
農業・漁業	温室管理装置、乾燥機、ビニールハウスなど
アパート経営	アスファルト舗装、エアコン、フェンスなど
太陽光発電	太陽光パネル、架台、変電設備など ※ただし、住宅等太陽光発電設備(低圧かつ10kW未満)を除く

※課税(申告)対象とならないものもあります。不明な場合は税務課まで問い合わせください。



住宅の耐震改修工事・バリアフリー改修工事・省エネ改修工事を行った場合、固定資産税を減額します

●住宅の耐震改修工事

令和3年12月31日までに、一定の耐震改修工事が行われた住宅について、120㎡までを限度として、翌年度分の税額を1/2減額します。
※長期優良住宅認定通知書の添付がある場合は、減額が2/3になります。

○家屋要件

昭和57年1月1日以前から所在する既存の住宅

○耐震改修工事要件

現行の耐震基準に適合する50万円を超える耐震改修工事であること

○減額申請手続き

次の関係書類を添えて改修工事後3カ月以内に所定の申告書を出してください。

- ①耐震基準適合証明書(建築営繕室(東館2階)または建築士などによる証明)
- ②領収書などの写し
- ③平面図

●バリアフリー改修工事

令和3年12月31日までに、

一定のバリアフリー改修工事が行われた住宅について

100㎡までを限度として、翌年度分の税額を1/3減額します。

○新築住宅特例や耐震改修特例の対象年度は対象となりません。

○家屋要件

新築された日から10年以上経過した住宅で次の全てに該当するもの

- ①床面積が50㎡以上
- ②居住部分の床面積の割合が1/2以上
- ③貸屋部分以外に居住部分を要すること

○居住者要件

次のいずれかの方が居住していること

- ①65歳以上の方
- ②要介護認定または要支援認定を受けている方
- ③障がい者の方

●バリアフリー改修工事要件

次の改修工事で、工事に要した費用が補助金を除き

50万円を超えるものであること。

- ①廊下の拡幅
- ②階段の勾配の緩和
- ③浴室の改良
- ④便所の改良
- ⑤手すりの取り付け
- ⑥床の段差の解消
- ⑦出入口の戸を改良
- ⑧床表面の滑り止め化



○減額申請手続き

次の関係書類を添えて改修工事後3カ月以内に所定の申告書を出してください。

- ①工事明細書の写し
- ②領収書などの写し
- ③写真(改修前・後)
- ④平面図
- ⑤補助金などの支給および交付決定通知書の写し
- ⑥要介護認定または要支援認定を受けている方、障がい者の方が居住している場合は各

●省エネ改修工事

令和3年12月31日までに、一定の省エネ改修工事「熱損失防止改修工事」が行われた住宅について、120㎡までを限度として翌年度分の税額を1/3減額します。
※長期優良住宅認定通知書の添付がある場合は、減額が2/3になります。

○家屋要件

平成20年1月1日以前から所在する既存の住宅で次の全てに該当するもの

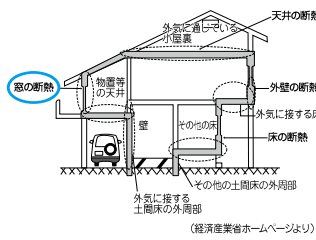
- ①床面積が50㎡以上
- ②居住部分の床面積の割合が1/2以上
- ③貸屋部分以外に居住部分を要すること

○省エネ改修工事要件

現行の省エネ基準に適合する次の改修工事で、工事に要

した費用が補助金を除き50万円を超えるものであること。

- ①窓の改修工事(必須)
- ②床の断熱改修工事
- ③天井の断熱改修工事
- ④壁の断熱改修工事



○減額申請手続き

次の関係書類を添えて改修工事後3カ月以内に所定の申告書を出してください。

- ①熱損失防止改修工事証明書(建築士、指定確認検査機関または、登録住宅性能評価機関による証明)
- ②領収書などの写し

問い合わせ

税務課 資産税係
☎222215
☎221247
FAX22247

